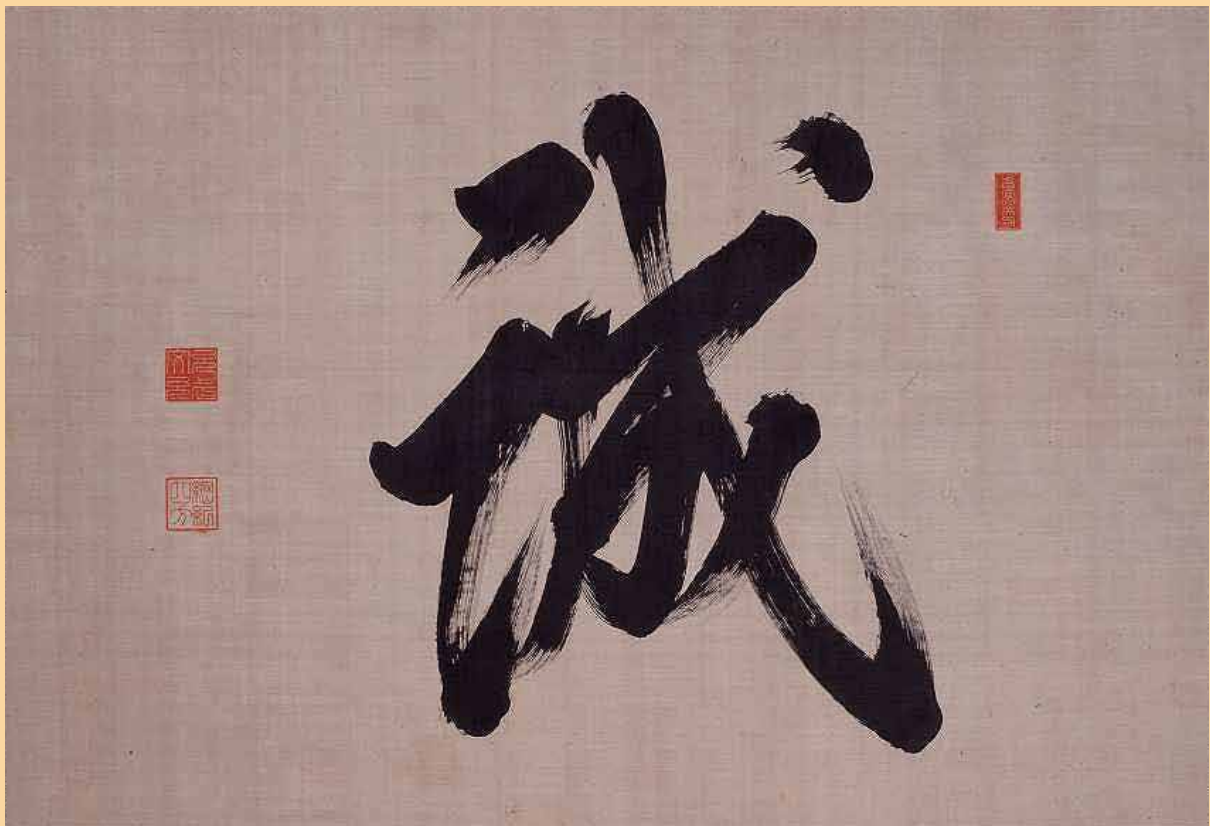


茨 剣 連 廣 報

令和 5 年 1 月 発行

一般財団法人 茨城県剣道連盟



書「誠」徳川慶喜（茨城県立歴史館所蔵）

主な記事

不易流行(小倉培夫).....	1	挑戦(平澤伸子).....	13
さらなる発展を目指す古希を迎えた茨剣連(齊藤克朗)...	2	ふたたびの居合道(庄司眞一).....	14
第一回茨城県地区・職域対抗剣道大会男子の部優勝(坂本 隆)...	4	居合道 六段に合格して(藤本敏子)	14
第一回茨城県地区・職域対抗剣道大会に参加して(川上厚子)...	4	県内・県外大会記録	15
一般財団法人茨城県剣道連盟70年史の完成報告(村嶋恒徳)...	5	コラム「作刀への思い」.....	19
第14回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会を終えて(金井優子)...	6	第六十八回東西対抗に参加して(山下克久).....	22
全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会に参加して(鍋山夏子)...	7	一味同心(湯山琴未).....	22
栃木国体に参加して(鈴木規仁).....	7	道場は汚れ場である(田中志道).....	23
表 彰		全国中学校剣道大会に出場して(塚田隆明).....	24
剣道有効賞を拝受して(平山恒夫).....	8	第三十九回茨城県剣道少年団研修会	
少年剣道教育奨励賞を受賞して(本間 敬).....	8	体験・実践発表会(牛坂裕彦) ...	24
責任と逸楽(田中志道).....	10	心に向き合う難しさ(瀬谷真琴).....	25
段位審査合格者.....	11	ありがとう、剣道(大泉彩葉)	26
段位審査合格者の声		道場紹介 わたしたちの《どうじょう》.....	27
剣道を通じた学びと感謝(川島仁一).....	12	事務局だより.....	29
日々感謝(埴 泰).....	12	編集後記.....	29
		表紙・裏表紙 書「誠」徳川慶喜 油彩画「西洋雪景色図」徳川慶喜	

書「誠」徳川慶喜（茨城県立歴史館所蔵）

将軍就任後の慶応3年（1867）3月の書。一橋家の先々代夫人である徳信院（直子）に書き送ったもの。直後に、最高位にある外交権者として兵庫開港の決意を胸に外国公使との会見に臨んでいる。颯爽とした筆遣いによる「誠」の一字に、その並々ならぬ決意と覚悟のほどがうかがわれる。

（茨城県立歴史館 平成26年度特別展図録「徳川慶喜」より引用）

不易流行



(二財)茨城県剣道連盟
会長

小倉 培夫

会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は、本連盟の充実発展のために、多大なご支援、ご尽力を賜り心よりお礼申し上げます。

本年度も新型コロナウイルス感染症がなかなか予断を許さない中、各地区・職域においても計画通りの事業推進に苦慮されていることと思います。

全日本剣道連盟は昭和二十七年十月に発足、それに呼応して翌年昭和二十八年四月に結成した茨城県剣道連盟は、平成二十四年十二月に一般財団法人茨城県剣道連盟として生まれ変わり、社会的な位置づけと財政基盤を確実なものとし、創立七十年を迎えました。先に創立三十・五十年を迎えた際に

記念誌を発刊致しましたが、この度、記念式典に併せて七十年史を発刊致しました。この記念史は、本連盟が創立七十年を迎えるに当たって五十年史以後の二十年を中心にした本連盟の歩みを集約したものです。今日まで素晴らしい歴史を刻んでこられた皆様の献身的なご努力に深く敬意を表し、心より感謝申し上げます。

この二十年は、国民体育大会剣道競技をはじめ、全日本選手権大会、全日本都道府県大会、全国健康福祉祭剣道大会、全国中学校剣道大会、全国高等学校剣道大会、全日本学生剣道大会、全国教職員剣道大会、全日本居合道大会等がそれぞれ優勝、その他多くの団体・個人選手が入賞しました。中でも、筑西市下館総合体育館において開催された、第七十四回国民体育大会剣道競技は、全国から選手・役員、一般観覧者など延べ約二万人が来場しました。大会は本県選手が激闘を制して、少年男子・少年女子・成年男子・成年女子の「四種別完全優勝」を達成、これ以上ない国体になりました。その

活躍は大会を大いに盛り上げ、本県やふるさとの方々に感動と元気を与えてくれました。天皇杯得点を一五四点は、本県全種目のトップの成績で天皇杯・皇后杯獲得に大きく貢献しました。加えて、競技会運営やおもてなしの心も素晴らしく、好評を頂いたことは記憶に新しいところです。そのレガシーを承継する目的で、国体開催記念第一回茨城県地区・職域対抗剣道大会を開催しました。

七十年という節目に、「不易流行」「剣道の根底に流れる不易なもの」とは何かを自問する契機になりました。今、私たちは、科学技術発展の中で便利さに慣れ過ぎていきます。物質的豊かさの中で困苦欠乏に耐える力が弱くなっています。高齢化や核家族の中で親子関係の情などにも変化をきたしているようです。このような中で、私たちが生きていくこれからの社会は、変化の多い不透明な厳しい時代になると言われています。何が起るかわかりません。思いもしないことが起るかも知れません。しかし、時代が大きく変化し

ても変わらない本質的なものがあります。本連盟は「剣道の根底に流れる不易なもの」を引き継ぎ、正しい剣道を次世代に承継する責務があります。

さらに剣道等の正しい普及・発展のために、教育の充実を図ることに及び剣道等の人口減少への対応です。少子化・コロナ禍に伴う剣道等人口減少、これは全国共通の課題となっておりますが、財政にも直結することもあり、会員の確保、経費削減等に真剣に取り組んでいるところであります。

またこの度、県教委は部活動を地域や民間の団体に委ねる「地域移行」の推進が急務と位置付けました。これらの課題克服のためには、皆様のお力が欠かせません。尚一層のご尽力をお願い申し上げます。

私事ですが、令和四年度剣道有功賞(全剣連)を賜りました。これも皆様のお陰であると、心より感謝申し上げます。

さらなる発展を目指す

古希を迎えた茨剣連

(二財)茨城県剣道連盟
専務理事

齊藤 克朗

◇令和四年度 上半期(四月～九月)
活動報告

新型コロナウイルス感染症との戦いが始まって三年目を迎えています。会員の皆様方にはコロナ禍にあっても本連盟の運営につきまして深いご理解とともに多大なるご尽力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

昭和二十八年四月に創立されました茨城県剣道連盟が本年創立七十年目を迎えています。新たな歴史へのスタートを切った年の上半期も関係各位のご努力により大会や審査会等々で飛躍に繋がる成果を収めていただいております。四月の全日本剣道大会での初優勝に始まり、五月には三年ぶりに開催された京都での全日本剣道演武大会、これには白寿で試合舞台に立たれた高崎慶男先生をはじめ本県から五十一名が参加

いたしました。高崎先生の凛とした立合いは正に「生涯剣道」の極みであり本県剣友の目標とする姿でありました。六月の関東高校剣道大会では男子団体で二校が第三位に入賞し

女子部門でも守谷高校が団体優勝と個人戦でも一位から三位までを独占するなど今回も本県高校生の競技レベルの高さを示すものとなりました。七月は感染症第七波の猛威の中、感染症対策を万全にして県内外の各種大会が開催されました。十日に全日本都道府県対抗女子剣道大会が開催され、会場内一時は「茨城県が男女共に優勝か!」との声も上がるなどの活躍で第三位に入賞を果たしました。二十四日には今年の栃木国体の出場する選手たちによる「関東七県対抗剣道大会」が水戸市で行われハイレベルの熱戦が繰り広げられました。そして三十日には県下最大の大会「団体選手権大会」が前回大会に続き男子・女子・シニアの三部門で開催され約五百名の参加がありました。八月は長野県での全国教職員剣道大会において土浦日大高校教員の山下拓真選手が個人優勝、前回大会の山下和真選手に続いて兄弟連覇となりました。九月の奈良県での全日本女子剣道選手権大会には本県から柿元選手と笠選手の二名の大学生

が出場しました。入賞こそ逃しましたがともに試合内容が評価され優秀選手賞に選出されました。

続いて、コロナ感染症の影響で中止や延期が続いておりますが審査会や講習会それに合同稽古については九月の「八段受審者講習会」以外は計画どおり開催することができました。剣道等の審査会には多くの剣友が挑戦し多数の昇段者を輩出することができました。これも日ごろの精進の賜物であり、さらなる上位への挑戦をご期待申し上げます。その中で県内の剣道三段以下審査会において受審者数が昨年の同時期より百八十一名増えたことは今後の活動への明るい材料になったものと思われまます。また合同稽古では全剣連の本年度の重点事項である「木刀による基本技稽古法」の習得についても計画され各先生方の指導技術の向上も図られました。さらに何度も延期になっていた「東日本高齢剣合同稽古会」ですが六月に水戸市で開催され多数の本県の高齢剣友が参加し健在ぶりをアピールいたしました。

このように徐々に社会全体の動き出しとともに剣道の活動も再開されつつあります。会員の皆様にはコロナ規制の緩和とともに個々の新たな目標に向かって活動充実に努められ

ますことをご祈念申し上げます。

◇茨城県剣道連盟 創立七十年記念事業

茨剣連創立七十年の節目を祝し4つの記念事業(1記念大会の開催
2 記念史の作成 3 記念式典の開催 4 功労者表彰)を計画し実施いたしました。

1「記念大会の開催」剣道等の本年度の県内各大会の名称に「剣道連盟 創立七十年」の冠を付けて実施するとともに新規に「地区・職域対抗剣道大会」を筑西市の協力を得て開催いたしました。新規大会は令和元年の茨城国体のレガシーの継承を目的に茨剣連に属する各地区・職域連盟及び専門部の参加によるものです。





2 「記念史の作成」 令和三年十月に「記念史編集委員会」を設置し各地区・職域連盟及び専門部のご協力を得て、平成十五年発刊の「五十年史」以降の出来事をまとめ「茨剣連この二十年の歩み」と題して作成されました。県内全ての団体の現状と記録は広く後世に引き継がれるものと思っています。

3 「記念式典の開催」 新型コロナウイルス感染症第八波の影響で祝賀会の開催には至りませんでした。約二百名の剣友のご出席を得て開催することができました。式典開始時間までは会場スクリーンに茨城国体や都道府県大会、京都大会での高崎範士の映像が放映され、式典では茨剣連の発展に尽力

された方々及び全剣連表彰者への表彰が行われました。

4 「功労者表彰」 記念式典において下記「茨城県剣道連盟創立七十年功労表彰」の受賞者に賞状と記念品を贈り功労を祝いました。

◇ 茨城県剣道連盟 功労表彰(個人・団体)

- 高山陽好 高崎慶男
- 佐藤成明 中里誠
- 金谷光躬 小澤智
- 高山能昌 小林忠雄
- 平子允秀 宮本清美
- 大森廣美 古谷勲
- 根本武雄 宮田忠幸
- 石山陸紀 曾雌哲雄
- 野澤龍之 赤野間洋
- 西野侑則 大都弘道
- 下館地区剣道連盟
- 水戸地区剣道連盟



- 日立地区剣道連盟
- 鹿島地区剣道連盟
- 石岡地区剣道連盟
- つくば地区剣道連盟
- 結城市剣道連盟

◇ 地区・職域剣道連盟 功労表彰

- 蛭田忠司 今川誠
- 金成勝子 梅村恒雄
- 徳田敏夫 八百律
- 磯崎正見 佐藤和男
- 石井修 埴清
- 小貫彰 宮本尚朋
- 若栗康男 堀米康雄
- 岡部弘 渡辺義久
- 中條武樹 小野泰之
- 足立光雄 鈴木義隆
- 杉野賢治 加藤清之
- 稲田敏己 飯泉省三

◇ 連盟専門部 功労表彰

- 川島安則 坂田正明
- 山口克己 淀縄寛
- 谷島喜和夫 横井宏昭
- 五木田成満 小磯仁宏
- 坂井忍 古谷芳和
- 假屋憲宏 小藺壽嗣
- 糸賀睦夫 眞谷繁美
- 藤崎金子 平根健夫
- 宮田武 上田忠夫
- 島村信之
- 塚本浩一 君島範親
- 坂本徳人

この創立七十年の節目の動きが、本県剣道界の未来と発展に繋がるよう、会員の皆様方の旧に倍してのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※表彰関係の敬称は略しております。



第一回茨城県地区・職域 対抗剣道大会男子の部優勝



監督兼大将
坂本 隆

令和四年十月三十日、茨城県筑西市下館総合運動公園体育館において、「第一回茨城県地区・職域対抗剣道大会」が開催されました。

本大会は、オリンピック憲章を参考にして、いきいき茨城ゆめ国体剣道競技の開催市である筑西において、国体と同様のチーム編成による大会を開催して、国体の遺産として次世代に引き継ぐことを目的に新設されたものとお聞きしました。

男子の部は
先鋒 二十五歳以下
次鋒 二十五歳～三十五歳未満
中堅 三十五歳～四十五歳未満
副将 四十五歳～五十五歳未満
大将 五十五歳以上
で国体と同様の年齢順によるチーム編成です。

本大会の出場選手を見ると茨城国体の選手、国体の強化練習に参加していた選手が出場していました。

会場の観客席では、大会プログラムをみてとてもレベルの高い大会との声が聞こえてきました。

私は、本大会に警察剣道連盟Aチームの大将として出場させていただきました。

県警Aチームは

- 先鋒 由波 光
- 次鋒 阿部 莞太
- 中堅 海老原秀則
- 副将 大輪 竜司
- 大将 坂本 隆

という、茨城国体優勝メンバーである海老原秀則選手を中心とした布陣で臨みました。

試合は、これまで各種大会で茨城代表を争ったライバルたちと対戦することができ、一瞬たりとも気が抜けない試合ばかりでした。

各試合場で茨城県の代表レベルの熱戦が繰り広げられていました。我がチームは序盤から若手の活躍もあり、最後まで勝ち抜くことができました。

警察剣道連盟はA、B二チームが出場させていただき、決勝戦を

この二チームで対戦することができ、運よくAチームが優勝することができました。

茨城国体の遺産を引き継ぐ第一回目の大会に優勝できたことは大変名誉なことであると同時に気が引き締まる思いです。

今後、本大会に出場した選手の中から国体や全日本剣道選手権大会等に出場する選手が必ず出てくることと思います。

最後にコロナ禍でこのような大会を新設開催してくださった、茨城県剣道連盟会長をはじめ役員、審判の先生、関係者の方々に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



第一回茨城県地区・職域 対抗剣道大会に参加して



監督兼大将
川上 厚子

令和四年十月三十日、茨城国体開催の地、下館総合体育館で記念大会が開催されました。この大会は、茨城国体の功績を次世代にも伝え、多くの選手が更なる活躍を目指すという目的で、国体強化委員長の諏訪先生を始め諸先生方がご尽力なされた大会と伺っています。このような大会に参加させて頂いたことに心より感謝申し上げます。

四年ぶりにこの会場に立った瞬間、あのとときの感動が再び蘇ってきました。茨城国体で私は成年女子の大将を務めました。国体までの道のりは長く、数々の強化練習を重ねやっとなんだ優勝だったこともあり、感動は大きなものでした。今大会ではその時に共に汗を流した剣友も数多く参加しており、鎧を削る戦いとなりました。茨城国体の時にように大きなプレッシャーはありません

んでしたが、充実した試合となりました。

この大会は国体と同じ年齢構成となっており、高校・大学時代に剣を交えた懐かしい顔触れの選手も参加しておりました。試合から遠ざかっていた方も各地区から参加され、茨城県の剣道界が更に活気付くきっかけとなる大会であったと感じております。私が参加した茨剣連女子チームも例外ではなく、先鋒の森井選手、中堅の高梨選手も、ここ数年のコロナ禍のため、試合は久しぶりの参加でした。高校・大学のつながりがあり、今回の参加依頼をしたところ、快く引き受けて頂き大会への参加が叶いました。久しぶりの大会で緊張を感じた場面もあったと思いますが、メンバーの持ち前の明るさとチームワークで、第一回大会で優勝することができました。二人には感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍で各種大会や練習が制限される中、今年度、茨城県は全国都道府県大会で男子が優勝、女子が三位。国体少年男子の部では、第二位と輝かしい成績を残しています。茨城国体が終わっても、本県が力を維持し活躍している、これこそが国

体開催の有益な遺産と言えるのではないかと感じています。少子化で剣道人口が減りつつある中でも今大会が皆さんの原動力となり茨城県が益々発展することを願っています。



一般財団法人茨城県剣道連盟 70年史の完成報告

編集委員長
村 嶋 恒 徳

茨城県剣道連盟が結成され、70年を迎えるにあたり、記念事業として、「一般財団法人茨城県剣道連盟70年史 この20年の歩み」を完成発刊することができました。

平成16年3月31日発行の「50年史」を踏襲し引きつぐ内容として、

各領域から推薦された先生方に委員となっていたいただき、原稿、資料の収集、校正などご尽力をいただきました。

各領域の会長会において、趣旨説明と原稿依頼を申し上げましたところ、3か月をもってほぼ全部の原稿資料が集まりました。茨城県の剣道・居合道・杖道の皆様の情熱と結束を垣間見た瞬間でした。

この20年の中で、国民体育大会完全制覇、全日本選手権優勝、全国都道府県大会優勝、インターハイ優勝、全国教職員大会優勝、全日本居合道大会優勝、ねんりんピック優勝など、茨城県剣道連盟は隆盛の極みです。

70年史には、歴代会長の先生方、顧問の先生方からの剣道連盟や茨城県の後進達への助言をはじめ全国大会3位以上・関東優勝のスナップ写真、各領域の活動の沿革、栄光の記録、年表などすべてが掲載されております。また、この20年で特記すべきこととして、国体、コロナの事、女子剣道について、特にご寄稿いただきました。

運動形態が合理化や単一化に進むことが近代化の尺度となっておりますが、武道はこの数百年、生の運動形態を残し「洗練」という文

化的な価値を持ち続けています。その美しさと真の意味での伝統の重みを、編集委員として感じさせていただきました。

終わりに、ご多忙な中、貴重な資料提供、ご寄稿をいただきました方々をはじめ、寸暇をさいてご協力を賜りました関係各位に衷心よりお礼を申し上げます。



編集委員長
村 嶋 恒 徳

- | | |
|--------|-------|
| 糸賀 睦夫 | 梅村 恒雄 |
| 大久保 隆 | 西野 隆 |
| 海老原 孝 | 黒澤 和敏 |
| 雨谷 益水 | 塚本 哲也 |
| 為我井 智 | 饗場 千晶 |
| 兼子 勝喜 | 直江 克也 |
| 橋 正宏 | 齊藤 克朗 |
| 早乙女 恭哉 | 鈴木 隆 |

第14回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会を終えて



監督
金井 優子

第14回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会が、3年ぶりに日本武道館に帰ってきました。全日本

剣道連盟設立70周年を記念し、初の7人制にて開催されました。今大会、コロナ禍の中、開催にあたりご尽力を賜りました関係各位に、この場をおかりして御礼申し上げます。

試合は1回戦シードにより、前回大会準優勝の岡山県との初戦となりました。第11回大会優勝時のメンバー3人を残しており、初戦の入りがかぎとなりました。齊藤専務理事より「初戦を良い流れで試合ができれば上手くいく」とのご指導を頂戴し、前衛4人が絶好調のスタートを切り、4対2で岡山県に競り勝ちました。続く3回

戦の宮城県を5対0、4回戦は栃木、山形、大阪を敗ってきた強豪福岡県、第10回大会優勝メンバー4人も残っておりました。辛くも2対2の本数差での勝利を拾いましたが、どっちに転んでもおかしくない試合内容でした。特に笠選手と妹尾選手の一番は見応えがあり、素晴らしい試合でした。準決勝では京都府に3対1で敗れてしまいました。堂々の3位入賞を果たすことができました。

今大会を振り返って、先鋒は16歳から大会最高齢の大将は61歳までと、幅広い選手層が一つのチームを組んで試合をする姿は感動の一言に尽きます。学生、社会人、子育て中のママ、職場や家庭との両立、そして平日頃、自ら進んで取り組む剣道修行に頭が下がります。

最後に今大会参加まで強化練習に際しご指導いただいた諸先生方、協力してくれた御家族の皆さまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

本大会の記録

〔2回戦〕

(先)	岡山	2	茨城
(中)	鹿毛	4	森園
(大)	水川	ツ	西笠
	木澤	○	星野
	伊東	○	相馬
	小津野	○	川上
	稲垣	○	鍋山
	忠政	○	山

〔3回戦〕

(先)	宮城	0	茨城
(中)	佐藤	5	森園
(大)	眞崎	○	西笠
	佐々木	○	星野
	昆野	○	相馬
	加藤	○	川上
	中村	○	鍋山
	味上	○	山

〔4回戦〕

(先)	茨城	2	福岡
(中)	森園	2	鈴木
(大)	西笠	○	妹尾
	星野	○	糸山
	相馬	○	中添
	川上	○	徳野
	鍋山	○	川野

〔準決勝〕

(先)	京都	3	茨城
(中)	橋本	1	森園
(大)	楠木	○	西笠
	山本	○	星野
	尾崎	○	相馬
	長澤	○	川上
	工藤	○	鍋山
	田中	○	山



全日本都道府県対抗女子 剣道優勝大会に参加して



大将
鍋山 夏子

令和4年7月10日、日本武道館において全国対抗女子都道府県剣道優勝大会が開催され、茨城県代表として出場しました。女子の大会では初めての7人制の大会となり、県ごとの層の厚さを感じる事が出来た試合でした。

2回戦目で優勝候補の岡山と対戦したのですが、先鋒から勝つと言う気持ちが続絶えることなく試合が進んで行き、選手一人一人の気持ちの強さがチーム全体の勝利につながったと思います。また、福岡県との対戦では茨城県チーム優勢のままでの大将戦となりました。皆の思いを背に「必ず守る」という気持ちで試合に臨む事が出来ました。

準決勝では優勝した京都に負け

てしまいましたが、今回の試合で最後まで勝負を諦めないという気持ちを持続させることの大切さを感じさせて頂いた試合だったと思います。

今まで女性7名で戦える試合がありませんでしたが、これを機会に多くの女性剣士が増える嬉しく思います。今回良いチームの一人として試合させて頂きありがとうございました。

栃木国体に参加して



監督
鈴木 規仁

この度、栃木県いちご一会国体少年男子の部において準優勝できたことは、選手、チームスタッフの力そのものだと実感しました。コロナの影響でなかなか思うような強化ができず、スタッフ一同歯がゆい思いもありました。数少ない強化の機会を充実したものにす

るため、高体連国体強化スタッフが一丸となって取り組んで参りました。茨城県国体で優勝するため、コーチ、選手が一丸となって取り組んできたことが今年度の栃木国体でも引き継がれ結果に繋がったと感じています。

先鋒・望月謙（水戸葵陵高校）持ち前の激しく正しい剣道で流れをしっかりと作ってくれました。

次鋒・神賀士道（茗漢学園高校）唯一の二年生としてすべてに真面目に取り組み頑張ってくれました。

中堅・高木滉大（土浦日大高校）長身を生かし大きくパワフルな剣道で関東ブロックから勝利に大きく貢献してくれました。

副将・田中志道（水戸葵陵高校）キャプテンとして他校同士が集まる国体チームをしっかりとめ上げてくれました。

大将・熊木隆汰（水戸葵陵高校）大将としてどんな状況にも動じない精神力は素晴らしく国体準優勝の立役者でした。

一回戦の奈良県では十本が動く試合となり先鋒、次鋒が一本取られるものの二本勝ちを収め良い流

れを作り中堅以降に繋げることができました。二回戦の北海道ではここでも好調の望月が二本勝ち、そして中堅高木が二本勝ちと力の差を見せつける試合となりました。決勝が懸かった宮崎県ではお互い一歩も譲らず副将が終わるまでで四引き分けと緊張感溢れる大将戦となりました。大将戦、先に先取したのは熊木でしたが終盤に返されここも引き分けとなり代表戦となりました。最後は見事な引き面を決め決勝進出を果たしました。

全国の決勝の舞台を楽しもうと臨みましたが地元栃木には三一一で敗れてしまいました。しかし、私自身この日の本県少年男子の出来は、日本一であったと確信しています。素晴らしい試合を展開してくれた選手たちに感動を覚えました。更に来年度の鹿児島国体に向けてチーム茨城一丸となって取り組んで参りたいと思います。

表 彰

剣道有効賞を拝受して



(二財) 茨城県剣道連盟
副会長

平山 恒夫

この度は、全日本剣道連盟より剣道有効賞を拝受し身に余る光栄と感激しております。これも偏に県連会長をはじめ諸先生並びに諸先輩の皆様のご指導とご尽力の賜と深く感謝致しますと共に厚く御礼申し上げます。私が今日まで剣道を続けることができたのは、中学高校の部活動を経て職業でも剣道に携われる恵まれた環境に身を置くことができたお陰と考えています。そして、その間に数多くの先生方並びに先輩方等との出会いがあり様々なご指導を賜ったからであります。

中でもその世代ごとに指導を受けた恩師との出会いは特別なものであります。私は、六歳の時父親が修行指導をしていた「大杉武会」に入門しました。そこで青木秀男先生に出会い剣道の道を開いて頂き長く指導を受けました。今でも「間と間合いで稽古するのだぞ」と指導されたことを思い出します。

高校の時は、岡崎千之助先生で関東大会、全国大会出場へと導いて頂きました。

警察では、中村廣修先生でこれから本格的な剣道の厳しい修業が始まりました。近寄りがたく稽古は厳しかったです。それでも稽古が終了した後「平山、竹刀を持って来い」と言われ構えや素振りの指導を何度も受けました。今の形の原点を作ったのだと思います。その後は、中里誠先生です。先生には選手時代から現在に至るまでご指導を頂き、また、指導者の道を開いていただきました。これまで導いていただいたこと

を深く感謝申し上げます。

剣道連盟には、永く強化委員会に携わせて頂き多くの県外の先生方との交流が修行の糧と成っており感謝しております。

今回の受賞を励みとしてさらに精進し、微力ながら茨城県剣道連盟の発展の為に尽力致す所存であります。

少年剣道教育奨励賞を受賞して



笠間洗心館 館長
本間 敬

この度、少年剣道教育奨励賞を頂きましたことにつきまして、大変光栄であり、関係者各位に心からお礼申し上げます。また、笠間洗心館の先人たちが築かれてきた伝統に対し、改めて感謝申し上げます。このような賞を受賞したことは、大きな喜びで

あると同時に、より責任を持つて子どもたちを指導するとともに、今後、より積極的に活動してまいりたいと考えております。

当道場についてご紹介いたします。当道場は、心身の鍛錬を目的に、剣道、居合道、抜刀道、笠間示現流の各部から成り立っております。当道場の前進は、戦後、笠間稲荷神社が中心となって剣道を復興させた古武道振興会であり、その後、故本間武男氏が昭和四十年代に古武道振興会の流れから笠間洗心館を設立し、初代館長となりました。その後、五十数年という長きにわたり、伝統が受け継がれております。特徴としては、笠間稲荷神社との関わりが深いため、毎年十一月三日に笠間市内で行われる神事流鏝馬の行列に古武道振興会として奉仕し、また、菊祭りの時期には、同じく古武道振興会として、毎年、笠間稲荷神社にて奉納演武を行っております。

日々の稽古についてでござい

ますが、剣道は、毎週水曜日と土曜日、午後七時十五分から一時間半程度、小学二年生から大学生、社会人と幅広い年齢で約二十数名が笠間中学校武道場にて稽古を行っております。居合道についても、二十数名の会員が在籍し、ほぼ毎日の朝稽古、週に三回の夜の稽古を笠間市武道館で行うなど、精力的に稽古を行っております。居合道の会員も年々増えているところがございます。抜刀道については、居合道の有志が毎週稽古を行っております。更に、笠間示現流でございますが、示現流の源流は「天真正自顕流（てんしんしようにじげんりゆう）」と言われ、その開祖が笠間出身の「十瀬与左衛門 長宗（そせよざえもんながむね）」と言われております。示現流は、十瀬の弟子から教えを受けた薩摩藩の東郷重位（とうこうごうちゅうい）が開いたもので、薩摩を中心に隆盛を極めました。その後示現流は薩摩藩の隣国の日向国延岡藩に伝わり、

藩主牧野家の笠間藩の移転により笠間に示現流が伝わりました。幕末明治には、笠間藩の示現流は広く知られました。この示現流を継承すべく、毎年十一月に笠間稻荷神社で奉納しております。今後は高校生などにも継承していく予定でございます。当道場の剣道の方針ですが、剣の鍛錬はもとより、基本を重視し、社会で恥ずかしくないような人間形成を重要視しております。「挨拶と返事、当たり前のことを当たり前のようにできる」ということを小学生に教え、礼節も重んじるようにしております。稽古においては、正しい剣道を教えることを重視し、指導方針を指導者間で共有するようにしております。最近では、中学、高校で剣道をしてきた剣士たちが大学生・社会人になっても道場に顔を出すようになり、少しずつではありますが、道場の異世代間の交流が図られ、道場が以前よりも活性化されております。

す。このような雰囲気大切に、誰もが稽古に来やすい環境を作っていくことが重要であるということを感じております。ここ何年かは、新型コロナウイルス感染症により、どの道場でも苦勞をされておりますが、当道場でも手探りのなか、工夫をしながら稽古をしているところがございます。慣れないマスクをした稽古に対応すべく、面をつけないで、素振り、足さばきの稽古を中心に体幹を鍛えたり、面をつけないでの打ち込みを行ったりしております。試合がでない中、子どもたちのモチベーションを上げ、指導者たちも根気強く、基本稽古をする必要性が出てきました。この機会をチャンスと捉え、なお一層、継続的に基本に忠実な稽古を実施して参ります。

を伝え、子どもたちが立派な社会人になれるよう指導をして参りたいと考えております。また、今日まで伝統を築き上げてきた先人たちの思いを忘れることなく、剣道の修練と振興に努力していく所存でございます。この度はありがとうございました。



責任と逸楽



国体少年の部副将
(水戸葵陵高等学校)

田中 志道

「茨城・田中」その名札を手にしたとき、茨城県の代表としての責任をひしひしと感じる一方で「絶対に他の代表選手を大差で凌いでやる」と思ったのが私の正直な感想です。

香川県で生まれた私は日本一を目指して、地元を離れ、茨城県の水戸葵陵高校に進学し厳しい稽古にも全力で仲間たちと取り組んできました。そして今回のチーム茨城では、今まで宿敵として戦ってきた他校の選手たちとチームとして共に戦っていくということで、最初はチームの中で少しピリピリとした雰囲気がい、自分をアピールすることに重点を置きがちでしたが、そんな私たちを変えた大きな要因は、チーム茨城のスタッ

フの先生方が口を揃えておっしゃっていた「代表としてのプレッシャーもあるだろうが、第一に優先すべきことは楽しむことだ」という言葉でした。その言葉を聞いたときに、余計な力が抜け、スツと肩の荷が下りたような気がしました。それからというもの、国体としての強化練習や遠征、合宿など重ねるうちに、今までの雰囲気は和らぎ、剣道のみならず、一人一人が役割を認識し、個性が出た良いチームとして成長していくことができました。

そして迎えられた本国体では、先鋒が会場全体がこちらを向くような充実した氣勢と相手を逃がさない攻めでチームの流れを作り、次鋒は2年生ながら力むことなく、伸び伸びと試合をして流れを繋ぎ、中堅は体格を活かした力強い打突、体当たりで相手を圧倒しました。副将である私は楽しむことを忘れず、自分の最大限の力を発揮できたと思います。大將はしっかりと締めくくることでそれぞれの役割を果たすことができました。しかし、残念ながら決勝戦で

敗れてしまいました。けれど楽しんでできた私たちの心の中に悔いを残っていません。「楽しいと思うこと」それは決して簡単なことではありません。本気で剣道に向き合っている以上、辛いこともたくさんあるけれど、わたしたちの努

力はいつかきつと報われる日が来ると信じています。今回の結果は、私にとって剣道人生の通過点であり、これからももっともっと全力で剣道を楽しんでいこうと思います。



常日稽古を
練る

千日の稽古を
鍛



段位審査合格者

剣道称号合格者

教士号

会期 令和四年十一月十八日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

諏訪 靖典 成田 宗伯
石川 剛 田中 一啓
小川 康夫 池田 公幸
池辺 明文 岡部 啓文
三野 宏明 酒井 睦男

錬士号

会期 令和四年十一月十八日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

深谷 健太 小池 卓司
濱 智昭 菅谷 雅彦
古谷 啓道 興野 聖人
高山 知政 坂本 俊一
石井 貴 廣瀬 寿嗣
鈴木 隆 羽田 勝典
佐和 正久 保科 憲二

剣道段位合格者

剣道七段

会期 令和四年八月二十日
会場 謙信公武道館

鹿内 誠 宮崎 雅則
川島 仁一 鷺津 哲也
成井 将浩 北山 伸一

会期 令和四年十一月十九日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

林 博城 雨谷 大輔

剣道六段

会期 令和四年八月二十一日
会場 謙信公武道館

飯塚 大河 村尾 考啓
大部 諭 白澤江身子
安原 洋治 藤崎 俊啓
豊田 邦洋

会期 令和四年十一月十八日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

對馬 紘孝 岡部 伸弘
廣瀬 瑞貴 小坂 直央
青木 祐太 岡崎 武司
川松 郁雄 本囃 敏和
鈴木 宜宏 鶴岡 光輝
三増 俊広 岸本 哲
塚田 正 青木 俊一

剣道五段

会期 令和四年十一月十九日
会場 県武道館

埴 泰 富山 禎仁
上野 貴之 蒲田 恭生
矢之目 澄 大武 雅史
舟橋 長人 宗像翔太郎
成田 翔一 長谷川俊成

牛嶋 達也 菅谷 祥輝
駒田 登吾 茅根 大裕
関野 陽真 鈴木 友紀

剣道四段

会期 令和四年十一月十九日
会場 県武道館

鉄炮塚剛士 堀 忠国
鈴木 理 高橋有紀子
平澤 伸子 樽川 千城
柳井 重光 石津 京美
篠原 邦博 林 健実
古平 亘 鈴木 禎之
佐川 拓史 谷口 真悟
山崎 朋奈 四宮 一隆
棚辺 誠 浅野 雅士
黒羽 廉 庄司 雄大
神郡 啓太 土田 京介
菊池 雄平 武蔵 治斗
高橋 幸太 鈴木 龍生
信田 篤人 柿元 芽月
笠 日向子 小林 可怜
竹内 杏輔 篠原 颯太

塚田 舞 池田 翔吾
金原 拓斗

居合道称号合格者

錬士号

会期 令和四年十一月十八日
会場 エスフォルタアリーナ八王子

楠本 健太 千葉 伸樹
江川 浩士 古川 幹雄

居合道段位合格者

居合道七段

日時 令和四年十一月二十七日
会場 江戸川区スポーツセンター

庄司 眞一 藤田 和弘

居合道六段

日時 令和四年七月二十六日
会場 岡山総合グラウンド体育館

石田 一男

日時 令和四年十一月二十七日
会場 江戸川区スポーツセンター

本田 勉 藤本 敏子
岩間 正典 金澤 廣善

居合道四段

日時 令和四年九月二十四日
会場 わかぐり体育館

根本 薫 師岡 和明
須藤 浩二 小野寺 満

杖道段位合格者

杖道五段

会期 令和四年十月二十九日
会場 東京武道館

吉田 雅光

杖道四段

会期 令和四年十月二十九日
会場 東京武道館

芳賀 智之 須藤 浩二
塚田 佳壱 村山 邦彦
國峯 勤 増田 修一
日高 祥勝 枝川 正
佐野 真

段位審査合格者の声

剣道を通じた学びと感謝



(七段合格)

川 島 仁 一

この度、令和四年八月の新潟の審査におきまして七段に昇段させていただきますました。

ご指導いただきました齊藤克朗先生をはじめ運武館、かすみがうら市剣道連盟の先生方、日頃、一緒に稽古している子どもたちに改めて感謝申し上げます。また、今回、同じ道場の鹿内先生と一緒に合格できたことも大変嬉しく思っております。

審査においては、六段受審時の反省を活かすことと先生方からご指導いただいたことを少しでも実践できるように自分の課題を強く意識して臨みました。前回の初めての審査では、自分なりの立ち合いのイメージはありましたが、フワ

フワした気持ちの状態で立ち合いに入ってしまった、十分な心構えができていなかったような気がします。今回は、自らに課したことをしっかりと意識し、試みて失敗したなら仕方ないという開き直りの気持ちを持って臨みました。心掛けたことは、「合気を意識する」、「自分勝手に打たない」、「打ち気を我慢する」、「面中心の攻めの気持ち」でした。

審査順は、受審会場の四組目で早めでしたが、自分の立ち合いの直前まで「やるべきこと」を思い返しました。他の先生方の立ち合いが気になるところではありましたが、「自分の立ち合いに集中すること」に専念しました。

平日は仕事の関係でなかなか時間が確保できず、稽古量は十分とは言えませんでした。毎週末の稽古は欠かさないよう心掛けました。また、日頃の稽古に加えて試合や講習会、子どもたちの試合の審判、応援などを通してより多く、剣道にかかわる時間を持つようにしたことも大変勉強になり、良かったと感じています。

今後も剣道を普段の生活に活かして、「人間形成の道」という剣道の理念を大切に、少しでも人生を豊かにしていければと考えております。これからも稽古が出来る日常に感謝し、先生方、子どもたち、家族への感謝の気持ちを忘れることなく、一生懸命に稽古を続けていく所存です。今後とも変わらぬご指導、宜しくお願いいたします。

日々感謝



(五段合格)

埜 泰

この度、令和四年十一月の審査会において、五段に合格することができました。これもひとえに小

野昭先生をはじめとする城北弘武塾の先生方、ならびに出稽古を快く受け入れてくださり、ご指導を賜った先生方のお蔭です。この場をお借りし、心より感謝を申し上げます。

げます。

日々の稽古の中で、先生方にくさんのご指導をいただきました。稽古が終わるたびに、その日にご指摘いただいた事を書き留めました。そして、昇段審査の二年前くらい前からノートの内容を読み返してみると、克服の出来ていない項目が多いことに愕然としました。これらの指摘事項を全て改善することはできませんでしたが、一つでも確実な物にするために努力をしてまいりました。

仕事の都合上、普段は土曜日と日曜日の週二日しか稽古が出来ませんでした。加えてコロナ禍の影響で、稽古そのものが自粛される苦しい期間もありました。その時期は、毎日のように自宅の庭で素振りをする事と、角材にくくりつけたタイヤへの打ち込みをする事で、モチベーションを維持し続けました。

四十歳で一級を取得してから十年あまり、何とか五段に合格させていたばかりでしたが、長あつという間の十年間でした。剣

挑戦

道の魅力に取りつかれたこの十年はとても楽しい毎日でした。試合で負けた際は悔しい思いもしましたが、その経験も含め全てが勉強となり、良い思い出となっています。



(四段合格)
平澤 伸子

まさか、こんなに剣道にのめり込むとは思っていませんでした。ですが、段位に合格するたびに次へ駒を進めたくなり、常に上を目指して頑張っていました。その頂は次第に高くなりましたが、諦めずにコツコツと取り組んでまいりました。

今回の合格を励みに、これからも精進していきたいと思いたいで、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

最後に剣道を始めるきっかけくれた子どもに感謝するとともに、剣道への理解を示してくれた家族へ感謝したいと思います。

令和四年十一月に行われました剣道昇段審査会におきまして、四段に合格することができました。

この場をお借りして、ご指導くださりました府中剣友会、石岡地区の先生方に心よりお礼申し上げます。

私は、小学三年生で剣道を始め、高校から上段を取り、大学まで続けました。社会人になった時、このまま上段を取り続けることはできないし、中段だとゼロから練習しないと通用しないかな、と思っただけで自然と剣道から離れて行ってしまいました。そして時が経ち、結婚、出産を経て、四年前、小学二年生だった息子が剣道を習い始めました。子供たちの稽古を見学している中で、小学生の子供たちとなら一緒に学べるのではないか

と思うようになり、今年の四月から稽古を再開しました。二十五年のブランクがあったのと、このコロナ禍でのマウスガードとマスクの着用ということで、最初はとても苦しかったです。

稽古を再開した時は、ただ子供たちと楽しく学べればいいな位に思っていました。稽古をして行く中で、先生方から昇段を目指してやっただ方がいいのでは、と言葉をかけたいただきました。とても悩みましたが、昇段審査に向けて頑張る姿を見せたら、子供たちにも良い影響を与えられるのではないかと、夏頃から考えるようになり、思い切って昇段審査を目標にしてみました。それからは出来る範囲で子供たちとの練習後、先生方に稽古を付けていただきました。中段での稽古は、打っては返され、その繰り返しで、全然自信が持てませんでした。そんな中、先生方は、「攻め方」や「打つポイント」など、丁寧にご指導していただき、とても励みになりました。

審査当日は、程良い緊張で、先生方にご指導いただいた事を思い

出しながら、攻める剣道が出来、合格に繋がったのだと思います。今回の挑戦で学ぶことの大切さを実感しました。いくつになっても挑戦し続けていこうと思えます。ありがとうございました。



ふたたびの居合道



(居合道七段合格)

庄 司 眞 一

この度、令和四年十一月の東京での昇段審査におきまして、居合道七段に昇段することが出来ました。これもひとえに、長年御指導頂きました水戸東武館の諸先生はじめ、強化稽古等でお世話になりました諸先生、ともに学んだ仲間の皆さんのおかげと心より感謝申し上げます。

私が居合道と出会ったのは仕事も一段落した五十二歳の時で、水戸東武館の門をたたいたのが始まりでした。武道としては遅かったのですが、居合道の魅力に取りつかれて、二十四年になりました。

今回の審査は私にとって大きなチャレンジでした。コロナ禍の中で各地の大会、イベント等はことごとく中止になり、また、不安も重なり、体調を崩し、一年半ほど、居合道から遠ざかってしまいました。そんな中、私は「筑波山がまの油売り口上」と言う、茨城県の伝統芸能の口上もしており、

春の海浜公園の口上で、何気なく、居合の技をまじえた所、大きな拍手を頂きました。忘れていた居合の素晴らしさを思い出しました。今年の四月に一念奮起し、七段挑戦を決意しました。

近くの公民館で稽古を始めてみると、二年近くのブランクは大きく下半身も弱り、体もあちこちと支障が出て、思うような稽古になりませんでした。道場稽古を再開しても、皆さんについて行けず、本当に戻るのどうかと、焦りが出て来ましたが、心配しないで自信を持っていいとの先生の言葉や、仲間の応援にささえられて、頑張り通すことが出来ました。稽古では特に、残心、間合等、心の部分に重きをおき、見えざる敵を意識することに力を入れて、稽古しました。

審査当日は、自分に自信を持って先生の言葉だけを思いうかべ、無心で臨んだのが良かったのか、幸にも合格することが出来ました。昇段したからといえ、まだまだ未熟でございます。これからは、七段の誇りを持って、地位に恥ぬよう、自分なりの修養、修練を重ね、人の心を打つ様な居合を目指したいと思っています。

今後ともご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

居合道 六段に合格して



(居合道六段合格)

藤 本 敏 子

この度、令和4年11月27日 江戸川スポーツセンターにて、六段合格をいただくことになりました。合格することのできたのは、指導して下さった先生方、先輩方のおかげです。前傾姿勢であること、右手に力が入り太刀筋が曲がってしまう、左足に体重を乗せて腹から進め、前の敵から目をはなすなど、いつも敵を意識しながら行動することなど、見てない様でも、私の悪い所を見抜き、修正箇所を指摘されます。

五段と六段の違い、今まで何を行ってきたんだろう。こんなにいい加減なことをしてたのかと、反省の日々でした。それと居合の先輩である方が、私の悪い癖をよく知っていて、アドバイスをしてくれました。感謝です。このようなことがなかったら前に進むことは出来ませんでした。今私達の信武館は、伯父・橋本信彦が昭和53年、大蔵省退官後に開設致しました。その当時は、剣道の子供さん達で賑わっていた様子が写真に写っています。杖道の門下生を募集

して、従兄弟の、小又勇氏に、美容と健康に良いからとの誘いにのり、気楽に娘と二人で杖道に入門致しました。茨城には杖道部は無かったとお聞きしてました。東京の蔵修館茨城支部に入門致しました。その内、木刀を使うのに、居合を習うと上達するからと言われ習い始めました。自分では杖道は五段を取ればと思っていました。居合は四段を頂いておりましたので、その後10年間昇段審査から遠のいておりました。

伯父が没してから、小又氏が主となりました。杖の昇段を勧められ、又挑戦することになりました。平成29年1月13日杖道六段をいただきました。その年、居合も五段をいただきました。続けて頑張りそうと思っていた所、夫が要介護になり、コロナ感染対策で何もかも自粛となり、月に一回東京に稽古に行っていたことも、東京の先生に来て貰うことも出来なくなりました。でも今度は全力で居合に力を注げればと思っております。江戸川スポーツセンターの合格発表のボードの前で、他県の合格された女性に「あなたこれから七段はどうするんですか?」と言われて、「私、七段に向かって頑張ります。」と思わず言葉が出ていました。

又先生方、先輩方に迷惑を掛けることになると思いますが宜しくご指導をお願い致します。

県内・県外大会記録

茨城県居合道大会

期日 令和四年六月五日
会場 ひたちなか総合体育館
(初段以下の部)

- 優勝 長島 敦
 - 準優勝 宇佐美稔則
 - 三位 山中 遥太
 - (二段の部)
 - 優勝 宇佐美優樹
 - 準優勝 佐藤 雅克
 - 三位 梅島 幸子
 - (二段の部)
 - 優勝 長峰千津子
 - 準優勝 古谷きよみ
 - 三位 関 孝幸
 - (四段の部)
 - 優勝 古谷 武士
 - 準優勝 高野 郁美
 - 三位 高橋真由美
 - (五段の部)
 - 優勝 小瀧 徳行
 - 準優勝 甲斐咲也香
 - 三位 櫻井 隆士
 - (六段の部)
 - 優勝 橋本 篤士
 - 準優勝 大庭 良介
 - 三位 谷川 久朗
 - (七段の部)
 - 優勝 齋藤 健一
 - 準優勝 二瓶 貴博
 - 三位 鳥越 啓隆
- 来栖 利枝

第四十八回茨城県道場少年剣道大会

(低学年の部)
期日 令和四年六月十二日

- 会場 ひたちなか総合体育館
- 優勝 小川少年剣友会 A
- 準優勝 茨城少年剣友会
- 三位 勝田若葉会 猿島剣友会
- 敢闘賞 下館武道館 明信館
- 結城尚武館 A 益水館 A

第四十四回茨城県道場対抗剣道大会

- 期日 令和四年六月十二日
- 会場 ひたちなか総合体育館
- 優勝 いばらき少年剣友会 A
- 準優勝 芳明館 A
- 三位 鉄水館 A 勝田若葉会
- 敢闘賞 俊水会道場 A 益水館 B
- 結城尚武館 A
- いばらき少年剣友会 B

第六十九回関東高等学校剣道大会

- 期日 令和四年六月十一日～十二日
- 会場 ぐんまアリーナ
- (男子団体戦)
- 三位 水戸葵陵 土浦日大
- (女子団体戦)
- 優勝 守谷
- (女子個人戦)
- 優勝 今村 真穂 (守谷)
- 二位 村田 結依 (守谷)
- 三位 五十嵐和奏 (守谷)
- (優秀選手)
- 熊木 隆汰 (水戸葵陵)
- 永座 蒼大 (土浦日大)
- 野尻 匠真 (茗溪学園)
- 村田 結依 (守谷)

令和四年度国民総合体育大会兼第七十七回国民体育大会剣道競技選手選考会

期日 令和四年六月十九日
会場 県武道館

- (成年男子)
- 先鋒の部 一位 松崎賢士郎
- 二位 寒川 祥
- 次鋒の部 一位 阿部 莞太
- 二位 大関 克典
- 中堅の部 一位 海老原秀則
- 二位 遅野井裕樹
- 副将の部 一位 川上 有光
- 二位 大輪 竜司
- 大将の部 一位 飯田 真巳
- 二位 本名 和彦

- (成年女子)
- 先鋒の部 一位 笠 日向子
- 二位 柿元 芽月
- 中堅の部 一位 相馬 沙織
- 二位 星野 若葉
- 大将の部 一位 川崎 佳子
- 二位 川上 厚子

- 第六十九回全国高等学校剣道大会
- 茨城県予選会 (団体戦)
- 期日 令和四年六月二十一日～二十二日
- 会場 筑西市立下館総合体育館
- (女子団体)
- 優勝 守谷
- 準優勝 茗溪学園
- 三位 水戸葵陵 岩瀬日大
- 五位 鹿島 常総学院 下妻一 鹿島学園

- 会場 アダストリアみとアリーナ
- (男子団体)
- 優勝 水戸葵陵
- 準優勝 土浦日大
- 三位 茗溪学園 水城
- 五位 土浦二 下妻一 鹿島学園

第三十四回全国健康福祉祭剣道交流大会茨城県代表選手選考会

期日 令和四年六月二十五日
会場 県武道館

- (六十歳～六十四歳)
- 優勝 落合 茂樹 (代表)
- 二位 新橋 祐樹 (代表)
- (六十五歳～六十九歳)
- 優勝 林 明人 (代表)
- 二位 松沢二三男
- (七十歳以上)
- 優勝 田中 榮治 (代表)
- 二位 大塚 則夫 (代表)

第六十九回全国高等学校剣道大会

茨城県予選会 (個人戦)
期日 令和四年六月二十六日
会場 かみす防災アリーナ

- (男子)
- 優勝 熊木 隆汰 (水戸葵陵)
- 準優勝 田中 志道 (水戸葵陵)
- 三位 相本 遥希 (水城)
- 三位 大輪 結世 (水城)
- 五位 大道寺一将 (下館一)
- 五位 高木 滉大 (土浦日大)
- 五位 永座 蒼大 (土浦日大)
- 五位 神賀 士道 (茗溪学園)
- (女子)
- 優勝 森園 華乃 (守谷)
- 準優勝 村田 結依 (守谷)
- 三位 小園井彩矢 (水戸葵陵)
- 三位 海老原 花音 (龍ヶ崎一)
- 五位 遠藤 叶美 (下館一)
- 五位 石原 実佳 (水戸一)
- 五位 吉井理奈子 (緑岡)
- 五位 江田 唯花 (岩瀬日大)

茨城県総合体育大会兼第七十七回国民
体育大会茨城県大会剣道競技(高体連)

期日 令和四年七月二日
会場 県武道館

(少年男子代表)

- 熊木 隆汰(水戸葵陵)
- 高木 滉大(土浦日大)
- 望月 謙(水戸葵陵)
- 田中 志道(水戸葵陵)
- 神賀 士道(茗溪学園)

(少年女子代表)

- 森園 華乃(守谷)
- 今村 真穂(守谷)
- 村田 結依(守谷)
- 五十嵐和奏(守谷)
- 小蘭井彩矢(水戸葵陵)

第十四回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

期日 令和四年七月十日
会場 日本武道館

三位 選手

- 森園 華乃(先鋒)
- 笠 日向子(次鋒)
- 西 柚衣(五将)
- 星野 若葉(中堅)
- 相馬 沙織(三将)
- 川上 厚子(副将)
- 鍋山 夏子(大将)

第四十二回茨城県女子剣道選手権大会兼第
六十一回全日本女子剣道選手権大会予選会

期日 令和四年七月十六日
会場 県武道館

- 優 勝 笠 日向子(筑波大)
- 二 位 柿元 冴月(法政大)
- 三 位 濱田 裕佳(筑波大)

茨城県中学校総合体育大会剣道競技の部

期日 令和四年七月十七日(十八)
会場 県武道館

(男子団体)

- 優 勝 水海道中
- 準優勝 茗溪学園中
- 三 位 佐野中 青葉中
- 五 位 明光中 総和中

(女子団体)

- 優 勝 下館中
- 準優勝 猿島中
- 三 位 青葉中 茗溪学園中
- 五 位 守谷中 取手一中

(男子個人)

- 一 位 塚田 隆明(水海道中)
- 二 位 武蔵 啓斗(水海道中)
- 三 位 佐藤 生真(波崎四中)
- 三 位 平岡 陵照(明光中)

第六十一回関東七県対抗剣道大会

期日 令和四年七月二十四日
会場 県武道館

予選リーグ敗退
選手

茨城A

- 柿元 冴月(先鋒)
- 相馬 沙織(次鋒)
- 川崎 佳子(六将)
- 寒川 祥(五将)
- 大関 克則(四将)
- 海老原秀則(三将)
- 川上 有光(副将)

飯田 真巳(大将)

茨城B
駒田 奈都(先鋒)

- 星野 若葉(次鋒)
- 川上 厚子(六将)
- 川崎 俊輝(五将)
- 堀川 峻(四将)
- 遅野井裕樹(三将)
- 大輪 竜司(副将)
- 坂本 隆(大将)

第五十三回茨城県剣道団体選手権大会

期日 令和四年七月三十日
会場 県武道館

(男子の部)

- 優 勝 芳明館A
- 準優勝 芳明館B
- 三 位 相知館金谷塾
- 三 位 相知館五篤会

(女子の部)

- 優 勝 水戸月曜会
- 準優勝 ねりんピック代表チーム
- 三 位 纏会
- 三 位 青藍館

茨城県中学生剣道団体選手権大会

期日 令和四年七月三十日
会場 下館総合体育館

(男子団体I部)

- 優 勝 水海道中A
- 準優勝 総和中A
- 三 位 青葉中A 茗溪学園中A

(女子団体I部)

優 勝 下館中

- 準優勝 境一中
- 三 位 茗溪学園中A 結城中

(男子II部)

- 優 勝 那珂三中
- 準優勝 勝田一中
- 三 位 城・常北中 阿見中

(女子II部)

- 優 勝 佐野中
- 準優勝 土浦三中
- 三 位 友部中 古河中

第六十四回全国教職員剣道大会

期日 令和四年八月十一日
会場 長野市ホワイトリンク

(団体戦)
2回戦敗退

(個人戦)

- 優 勝 山下 拓真(土浦日大)

第七十七回国民体育大会関東ブロック大会

期日 令和四年八月二十日
会場 東京武道館

(成年女子) 予選リーグ敗退

- 笠 日向子(先鋒)
- 相馬 沙織(中堅)
- 川崎 佳子(大将)

(少年男子) 第2位

- 望月 謙(先鋒)
- 神賀 士道(次鋒)
- 高木 滉太(中堅)
- 田中 志道(副将)
- 熊木 隆汰(大将)
- (少年女子) 優勝
- 今村 真穂(先鋒)
- 五十嵐和奏(次鋒)
- 小蘭井彩矢(中堅)

村田 結依 (副将)
森園 華乃 (大将)

第七十回茨城県剣道選手権大会兼
第七十回全日本剣道選手権大会
茨城県代表選手選考会

期日 令和四年八月二十七日
会場 県武道館
優勝 松崎賢士郎 (代表)
二位 寒川 祥 (代表)
三位 山下 拓真

第六十回全日本女子剣道選手権大会

期日 令和四年九月四日
会場 ジェイテクトアリーナ奈良
柿元 冴月 4回戦敗退
(ベスト8) 優秀選手

笠 日向子 3回戦敗退
(ベスト16) 優秀選手

第十七回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

期日 令和四年九月十八日
会場 おおきにアリーナ舞洲
(小学生の部)

茨城県代表 決勝トーナメント1回戦敗退
選手

木村 敬司 (先鋒/猿島剣友会)
中村 康志 (次鋒/鬼怒西剣道クラブ)
河田 侑磨 (中堅/日立ジュニア剣道クラブ)
師岡 壱太 (副将/明信館)
清水 教介 (大将/若葉会)
(中学生の部)

茨城県代表 決勝トーナメント1回戦敗退
選手

熊木 優香 (先鋒/下館士徳会)
櫻井 菜成 (次鋒/青雲塾剣誠会)
佐藤 生真 (中堅/波崎修武館)
武蔵 啓斗 (副将/水海道剣道教室)

安東 愛季 (大将/芳明館)

第六十八回全日本東西対抗剣道大会

期日 令和四年九月十八日
会場 神戸市立中央体育館
東軍優勝
茨城県代表選手

山下 克久 (教士八段/東軍12将)
川崎 臣 (教士八段/東軍8将)
海老原秀則 (教士七段/東軍24将)
落合 弥生 (東軍女子の部副将)

第七十七回国民体育大会

期日 令和四年十月三日~五日
会場 ユウケイ武道館 (宇都宮市)
男女総合 5位
(成年男子)

3回戦敗退
松崎賢士郎 (先鋒)
阿部 莞太 (次鋒)
海老原秀則 (中堅)
川上 有光 (副将)
飯田 真巳 (大将)
(少年男子)

2位
望月 謙 (先鋒)
神賀 士道 (次鋒)
高木 湜太 (中堅)
田中 志道 (副将)
熊木 隆汰 (大将)
(少年女子)

1回戦敗退
今村 真穂 (先鋒)
五十嵐和奏 (次鋒)
小藪井彩矢 (中堅)
村田 結依 (副将)
森園 華乃 (大将)

第五十七回全日本居合道大会

期日 令和四年十月八日
会場 東京武道館
五段の部
小瀧 德行 4回戦 (ベスト8)
六段の部
橋本 篤志 2回戦
七段の部
齋藤 健一 3回戦 (ベスト16)
団体の部 13位

令和四年度 茨城県中学校新人体育大会
期日 令和四年十月二十六日~二十七日
会場 水海道体育館
(男子団体)
優勝 茗溪学園中
準優勝 総和中
三位 谷田部東中 守谷中
敢闘賞 青葉中 佐野中 麻生中
駒王中
(女子団体)
優勝 茗溪学園中
準優勝 守谷中
三位 水海道西中
四位 猿島中
敢闘賞 青葉中 明光中 泉丘中
美野里中

(男子個人)
一位 神賀 順道 (茗溪学園)
二位 阿部 峻平 (茗溪学園)
三位 佐藤 颯馬 (茗溪学園)
三位 川崎 泰知 (谷田部東)
(女子個人)
優勝 竹内さくら (茗溪学園)
二位 櫻井 菜成 (猿島)
三位 佐藤ほの美 (波崎四)
三位 石島 杏莉 (下館西)

茨城県剣道連盟創立七十年
いきいき茨城ゆめ国体開催記念
第一回茨城県地区・職域対抗剣道大会

期日 令和四年十月三十日
会場 下館総合体育館
(男子)
優勝 警察剣道連盟A
二位 警察剣道連盟B
三位 下館地区剣道連盟
三位 高等学校剣道連盟
(女子)
優勝 茨城県剣道連盟女子部
二位 学校剣道連盟
三位 鹿島地区剣道連盟
三位 小美玉地区剣道連盟
(優秀選手)
岡崎 立樹 (下館地区剣道連盟)
直井 勝彦 (警察剣道連盟)
海老原 孝 (高等学校体育連盟)
阿部 寛太 (警察剣道連盟)
鈴木 美浦 (鹿島地区剣道連盟)
郡司 法子 (小美玉地区剣道連盟)
相馬 沙織 (学校剣道連盟)
川上 厚子 (茨剣連女子部)

第七十回全日本剣道選手権大会
期日 令和四年十一月三日
会場 日本武道館
松崎賢士郎 3回戦敗退
寒川 祥 1回戦敗退
(ベスト16) 優秀選手

令和四年度 茨城県武道フェスティバル大会
期日 令和四年十一月六日
会場 県武道館
優勝 (二財) 勝田若葉会
準優勝 下館士徳会
三位 芳明館 結城尚武館

令和四年度 茨城県剣道連盟創立七十年
いきいき茨城ゆめ国体開催記念
第一回茨城県地区・職域対抗剣道大会
期日 令和四年十月三十日
会場 下館総合体育館
(男子)
優勝 警察剣道連盟A
二位 警察剣道連盟B
三位 下館地区剣道連盟
三位 高等学校剣道連盟
(女子)
優勝 茨城県剣道連盟女子部
二位 学校剣道連盟
三位 鹿島地区剣道連盟
三位 小美玉地区剣道連盟
(優秀選手)
岡崎 立樹 (下館地区剣道連盟)
直井 勝彦 (警察剣道連盟)
海老原 孝 (高等学校体育連盟)
阿部 寛太 (警察剣道連盟)
鈴木 美浦 (鹿島地区剣道連盟)
郡司 法子 (小美玉地区剣道連盟)
相馬 沙織 (学校剣道連盟)
川上 厚子 (茨剣連女子部)

敢闘賞 麻生剣友会 明信館
日立ジュニア剣道クラブ
いばらき少年剣友会

第七十回記念全国青年剣道大会

期日 令和四年十一月十二日～十三日
会場 東京武道館

(男子団体戦)
茨城県代表 取手市 3回戦敗退
(ベスト8)

(女子団体戦)
茨城県代表 土浦市 3位
(男子個人戦)

山崎大輝 5回戦敗退(ベスト8)
山崎健多 5回戦敗退(ベスト8)

ねんりんピックかながわ2022
期日 令和四年十一月十二日～十四日
会場 伊勢原市体育館

予選リーグ敗退
新橋 祐樹(先鋒)
落合 茂樹(次鋒)

林明 人(中堅)
田中 榮治(副将)
大塚 則夫(大将)

第三十九回茨城県剣道少年団研修会
(剣道体験・実践発表会)

期日 令和四年十一月十三日
会場 ゆうゆう十王丁ホール
(小学生の部)

最優秀賞
大泉 彩葉(日立ジュニア剣道クラブ)
優秀賞 塚本 心愛(逆西少年剣友会)

優秀賞
雨谷 凜(いばらき少年剣友会)
(中学生の部)

最優秀賞
瀬谷 真琴(日立ジュニア剣道クラブ)
優秀賞 小野明日香(波崎修武館)
軽部 結(下妻剣士館)

第二十七回茨城県実業団剣道大会
期日 令和四年十一月十三日
会場 那珂市総合運動公園体育館

(男子個人)
Aクラス(六十歳以上)
優 勝 佐藤 次郎(日立)

準優勝 堀越 俊行(下館)
三位 天貝 一男(長寿館)

Bクラス(四十五歳以上)
優 勝 小岸 俊彦(土浦)

準優勝 山形 剛(ALSOK茨城)
三位 川島 仁一(常陽銀行)

三位 保田 健一(小美玉)

Cクラス(四段以上三十歳以上)
優 勝 青木 祐喜(坂東)

準優勝 高橋 学(常陸太田)
三位 高山アルベルト(日立)

三位 若松 登(桜香方正会)

Dクラス(四段以上二十九歳以下)
優 勝 鶴見 健太(坂東)

準優勝 重藤 淳志(水戸)
三位 作山 嵩弘(茨城県庁)

三位 石田 広明(常陽銀行)

Eクラス(三段以下三十歳以上)
優 勝 栗飯原祥吾(鹿島神栖)

準優勝 塚本 貴大(桜香方正会)
三位 片江 真吾(日立ハイテク)

Fクラス(三段以下二十九歳以下)
優 勝 菅原 優輝(日立おのみか)

準優勝 濱野心之助(日立事業所)
三位 山崎 巧巳(ALSOK)

三位 佐川 翔真(日立事業所)

Gクラス(三段以下)
優 勝 小堀 桃佳(ALSOK)

準優勝 松本 滯那(桜香方正会)
三位 二宮 未来(日本製鉄鹿島)

Hクラス(四段以上)
優 勝 篠原佐智子(ALSOK)

準優勝 石井明日香(土浦)
三位 上瀧真梨子(日立事業所)

(団体戦)
優 勝 ALSOK A

準優勝 ALSOK B
三位 茨城県庁
三位 日本製鉄鹿島

第2回茨城県支部對抗居合道大会
期日 令和四年十一月二十日
会場 ひたちなか総合体育館

優 勝 守谷 A
古谷 優太(先鋒)

落合 隆行(中堅)
古谷 武士(大将)

準優勝 古河 A
山中 遥太(先鋒)

高野 郁美(中堅)
高橋真由美(大将)

三位 土浦 B
安 裕羅(先鋒)

矢治光一郎(中堅)
ジウ・ヴィセンテ(大将)

三位 古河 B
西城 舟二(先鋒)

蓮見 憲一(中堅)
若林美咲枝(大将)

敢闘賞
下妻 B
渡辺 純(先鋒)

野村 操(中堅)
小口賢治(大将)

鹿島・鹿行
若栗 俊樹(先鋒)

朝日 勇貴(大将)
かすみがうら
長峰千津子(中堅)

藤崎 俊啓(大将)
土浦 C
三上 裕之(先鋒)

師岡 和明(中堅)
鈴木はるみ(大将)

奨励賞
高野 耀斗(古河)

野村 翔(守谷)
古谷 優太(守谷)



コラム「作刀への思い」

・茨城県唯一の刀剣作家・

宮下正吉氏訪問記・

前号で『剣道具へのこだわり』をご紹介しました。今回は、剣道連盟会員の皆様に一番関係の深い『刀』について取材が実現できまし

た。刀鍛冶の宮下正吉さんです。全国に刀鍛冶は三〇〇名ほどいると言われています。茨城県では刀剣作家の宮下正吉さんのみです。ご本人の「作刀への思い」と「刀のでき方（作り方）」をすでに宮下さんがネットで紹介したものを取り混ぜてご紹介します。（広報部記）



作刀へのこだわり 宮下 輝（正吉）

私が刀鍛冶の世界に入ったのが十五年前、認可を取得し自分で作刀を初めたのが十年前、茨城県つくば市にて自分の鍛刀場を構えたのが七年前となります。

この世界に入り多くの経験を積んで来ましたが、私の作刀への思いは、この世界に飛び込んだその時と変わっていません。「私自身が感動したように、誰が見ても、私と同じ感動を覚える刀を作りたい」という思いです。

私が特に感動したのは装飾など無く、拵えや鞘すらも取っ払い、鉄の塊でしか無い刀本体その物のみで美術品として完成しているという点です。

刀はその美しさ・武器としての重要性などから神社などに奉られてきた物もあります。そんな古来より日本人が感じてきた美しい・素晴らしいという感情を、私の刀にも感じられるよう作刀しているのです。

そんな中私が特に重要視しているのが、刀はあくまでも武器であ

り凶器であるという事であり、武器と成らない刀であれば作る意味が刀をどう捉えているのかはそれぞれだと思えますが、どのように神聖視されようともその事実は変わらず、その上で武器であるはずの刀を神格化させるほどの美術的価値を持つことに私は感動を覚えるのです。

未だ理想はありつつもそれを表現するに至らぬ私ですが、日々の積み重ねを大事にし、私が受けた感動を体現する刀を作刀出来るよう精進して参ります。

刀のでき方

そもそも刀鍛冶と呼ばれる職人は、あくまでも刃の部分を作っている職人です。日本刀全てを一人で製作しているわけではありません。「研師」「白銀師」「鞘師」「塗師」「柄巻師」「装剣金工」など、さまざまな職人さんの手によって、一振の日本刀は仕上げられています。

刀鍛冶になるには文化庁主催の実地研修会を終了する必要があります。宮下さんの話を伺うと、研

修というよりも試験といった方が
良いかもしれません。それも受験
資格は、刀匠資格を有する師匠に
弟子入りして五年以上の方のみと
いうことです。数日かけて審査員
が見ている前で実際に刀を作り、
実力がないと途中で振り落とされ
ます。

宮下さんは、刀鍛冶の登竜門
と呼ばれている日本美術刀剣保
存協会主催の「新作名刀展」で、
二〇一三年に新人賞と努力賞を受
賞しました。

侍の時代ではなくなった今、日
本刀は登録が必要な美術品として
親しまれています。

日本刀は「姿」「地肌」「刃文」
の三つの見どころがあります。姿
とは、日本刀全体の形の事です。
地肌とは、刃の模様のことです。
刃文とは、切る部分の模様のこと
大きく分けると「直刃（すぐは）」
と「乱刃（みだれば）」に分類され
ます。写真は乱刃です。この刃文
を付ける工程は、個々の刀鍛冶の
秘術なのです。

日本刀の作り方は、たたら製鉄
によって玉鋼（たまはがね）を抽

出し、さらに良質な鉄のみになる
よう水へしという作業を行います。
熱したものを薄く打ち延ばし、水
に入れて急冷し焼きを入れます。

写真①が、打ち延ばしたものです。



次にてこ棒という鉄の棒の先に鋼
を積み重ねて和紙で包み、藁灰と粘
土をかけて、火床へ入れます。熱す
ると湯が沸いているような音がする
ため「積み沸かし」と、名が付いた
とされています。鋼がどれほど熱し
たか、炎の色や形などを見て判断し
ます。

次に積み沸かしという作業（写
真②）。また藁灰と泥状の粘土を表
面に付けることで軽酸化膜ができ、
酸化から守り鉄の減りを防ぐ効果
があります。脱炭を防ぐとともに、
中心からムラ無く温度をあげるこ
とができるのです。



そこから、「鍛錬」となります。
これが「刀鍛冶」と聞いたとき、
イメージする作業風景（写真③）。
「折り返し鍛錬」で鉄を幾重にも重
ねて打つことで、日本刀の見どこ
ろの1つ「地肌」が生まれます。

また鍛錬には、鋼に含まれた炭
素が均一化され、強度が上がると
いう効果もあります。

次は、「素延べ（すのべ）」「火造
り（ひづくり）」を経て、刀へと成
形します。そして「土置き」です。



これらは、刀の見どころの「刃文」
を付ける工程です。これは、職人
さんごとにさまざまな工夫を凝ら
している職人の顔とも呼べる技と
のこと。企業秘密の部分となりま
す。そして「焼き入れ（写真④）」
です。ここで見どころの「姿」が
決まります。



焼き入れとは、形成した刀をじ
つくりと八百度ほどに熱し急冷す
ることで、日本刀の反りが現れま
す。これまでの工程で培った日本
刀のしなやかさが表現される、大
事な工程の一つです。

そうしてできた刀に鍛冶研ぎや
銘切りなどの作業を行い、ようや
く刀鍛冶の手を離れます。

金属といえども、柔らかいもの
や硬いものさまざまです。それら
を火の具合を見て溶かし着け、重

ね合わせて鍛錬し、冷やして形成するなど幾重の手順を経て刀は出来上がります。

刀鍛冶の仕事は物理や化学、地学などさまざまな理科的要素が含まれています。昔の人は科学のデータなどではなく、それを工夫で見つけたのだからすごいと感じざるを得ません。

そこへ「技」も習得しなければならぬ刀鍛冶です。基本を師匠から手とり足とり教わるなんてことはありません。見て覚える。それでも『これは絶対に教えない』という師匠秘伝の技があるという世界なのです。弟子に入ると、炭を切り分けるところから覚え、修行は一生続くとのこと。

刀鍛冶の作業は、冬から春に火を起こす作業を行い、夏から秋にかけては、鍛冶の道具を作ったり、炭を切り分けたりしながら準備をするのだそうです。また、火を使う作業は炎がよく見えるように、部屋を暗くして行われます。カン！カン！カン！という響きに伝統の重さを感じます。

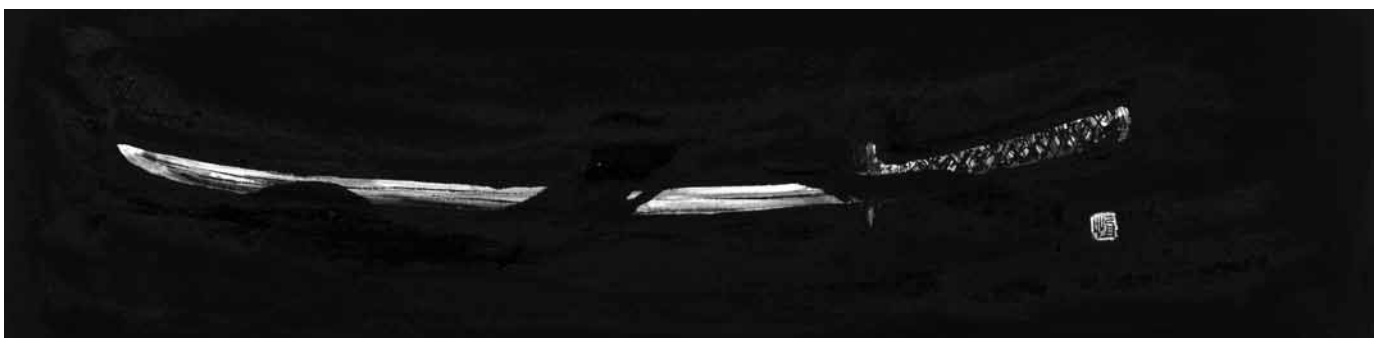


宮下さんの略歴

高校卒業後は群馬大学工学部に進学。大学在学中に、人間国宝の故・大隈俊平（おおすみ としひら）さんの日本刀に感銘を受け、元々、中学時代から伝統工芸、特に刀剣に興味があったこともあり、刀剣作家になることを決意しました。大隈俊平さんに弟子入りを願った。大隈俊平さんが高齢だったのですが、長野県東御市の刀匠だったので、長野県東御市の刀匠で同県無形文化財技術保持者の宮入法廣（みやいり のりひろ）さんを紹介され、弟子入りすることを決めました。「自分にはこれしかない。若いうちに習得しないと取

り返しがつかない。」と思い、大学卒業後の二〇〇七年四月、宮入法廣さんのところで住み込み、兄弟子と共に修行に励みました。約七年間の厳しい修行の末、二〇一四年六月に独立し、つくばに戻りました。二〇一五年一月に、つくば市に工房「筑波鍛刀場」を開設し、現在、刀剣作家として、ご活躍中です。

刀鍛冶の登竜門といわれる日本美術刀剣保存協会の「新作家刀展」にて平成二十五年 新人賞・努力賞（初出品）平成二十六・二十七・二十九・三十年 努力賞と連続受賞しています。



第六十八回東西対抗に参加して



阿見町立竹来中学校校長

山下 克久

この度は、東西対抗に出場する機会を与えていただき、誠にありがとうございました。今年は全国から各軍男子三十一名(範士十一名、八段十四名、七段十二名、六段三名)女子九名(五十代二名、四十代三名、三十代二名、二十代二名)が参集しました。私自身は二回目の出場でしたが、名だたる選手が集う中での緊張感、初出場の時と変わらぬ重圧がありました。唯一の救いは、同県から川崎先生、海老原先生、落合先生が出場されていまして、大変心強く、東軍勝利のために精一杯戦わせていただきました。

私の対戦相手は、母校の高千穂高校の先輩である谷川選手(宮崎県警)でした。私が一年生の時の

三年生で、大将をされていましたので、当時は雲の上の存在で、部内戦さえやらせてもらえなかった憧れの先輩です。その方と剣を交えることができるのですから、これほど光栄なことではなく、楽しみでもありました。しかし、いざ出番が近づくと、対面に控えている先輩の迫力と風格に圧倒されそうになったというのが本音です。久しぶりの緊張感を楽しみながら、胸を借りるつもりで試合に臨みました。結果は一本勝ちでしたので、東軍の勝利に貢献でき、茨城県にも恩返しできたと一安心しております。試合後に、先輩と談笑する時間があり、ほんの数分でしたが高校時代の先輩・後輩の関係に戻れたことも、大変有意義なものとなりました。加えて、全国の

剣豪と交流できたことで、自分の未熟さを痛感し、今後の稽古の意欲につながったことは大きな収穫です。改めて「交剣知愛」の素晴らしさを感じております。小学校一年生から剣道を始めて、今年で四十九年目。これまでたくさんの方々にお世話になってきました

が、まだまだ新しい出会いがあり、学ぶ場がたくさんあると思います。「一期一会」を肝に銘じ、感謝の気持ちを忘れず精進し、本県の剣道発展のお役に立てるよう尽力して参ります。引き続き皆様のご指導のほどお願い申し上げます。



一味同心

— 全国高等学校剣道選抜大会に

参加して—



若溪学園高等学校

湯山 琴未

中学三年生の夏、最高学年として全国大会、関東大会に出場したという思いで日々稽古に取り組みませんでした。その時にこれまでどれだけ先輩方に頼って試合に出てきたかを痛感し、再び最高学年となった今年、最初の大きな大会である全国選抜大会は必ず出場を勝ち取って、自分達の成長を見せたいという思いがありました。そのため、選抜大会の予選が中止となり、推薦校としての出場が決まったのを知ったとき、私は複雑な気持ちでした。また、コロナウイルスの影響で登校や稽古が二日に一回しかできないこと、メンバーが一人でも欠けたら出場できな

いこと等、不安なことで頭がいっぱいになりました。しかし、できることをやって今まで以上に剣道に向き合うことを決め、稽古をしました。

選抜大会までの約一ヶ月間は剣道で悩むことも多かったですが、剣道がより好きになった一ヶ月でもありました。山のように見つかる課題をどう克服していくのかを考えるのがつらい日もありました

が、お互いに日々の成長に気づく機会が増えていき、剣道の奥深さを改めて感じました。選抜大会では一回戦で敗退してしまいました。が、楽しんで試合をすることができました。試合をした選手だけでなく、他の強い選手の剣道を近くで感じることでできる環境で試合に臨めたことだけでも、全員の経験と自信に繋がりました。

選抜大会での学びを活かして、最後の夏は感謝の気持ちを胸に悔いが残らないよう試合に挑みたい

です。最後に、選抜大会を振り返り、普段伝えられていない感謝を日々支えてくださる方々に伝えなければ

いけないと感じました。練習時

※誌面上の都合により湯山さんの原稿を前号(65号)に掲載できませんでしたので、今回載せさせていただきます。

道場は汚れ場である

—— インターハイ 感想記 ——



水戸葵陵高等学校

田中 志道

私は日々の練習の辛くて苦しい場面において「道場の中で自分の

プライドを捨て、恥を捨てて必死になっても誰も馬鹿にしたり、笑ったりなんかしない。汚れた分だけ強くなり、大舞台で輝けるんだ。」

という監督の言葉を信じて、どんなに醜い姿になろうとも、高校剣道の集大成であるインターハイで日本一を掴むため、必死になって練習に取り組んできました。

そして大会当日、高校入学からコロナ禍で、試合は無観客の大会が多い中、今回の大会は有観客というところで、遠いところを父兄の方々が応援に駆けつけてくださり、自分たちの勇姿を見てもらえるということもあり、大きな自信と勇気を胸に秘めて試合に臨みました。しかし、渡井は個人と団体の両方で出場しましたが、日本一という目標を叶えることはできずに、葵陵としての高校最後の大会は幕を閉じてしまいました。団体戦においては、三校リーグの中で初戦は勝利することができましたが、もう片方の高校には引き分け

を見せる形になってしまい、今まで感じたことのない敗北でした。それはじわじわと悔しさを、情けなさを、終わってしまったんだと私の胸を蝕んでいき、うまく切り替えることができませんでした。

大会が終わり、しばらくして父と電話で話した時に「キャプテンのお前がそんなんでどうするんや、お前の剣道はここで終わらんか」と言われ目が覚めました。剣道は生涯スポーツであり、私は本校で生涯にわたって通用する剣道を学んできたのです。直近では国民体育大会の関東ブロック予選も控えており、仲間達も高校を卒業した後、それぞれの場所で剣道を続けていきます。本校出身の先輩方は、社会人になっても剣道で活躍しており、その姿は美しく、眩しいくらいに輝いています。私のこの剣道人生はまだまだ続いていくのです。何の結果も残していかないのに足踏みしている暇はないと覚悟を決め、私はこれからまたくさん汚れていく覚悟で精進していきます。

全国中学校剣道大会に出場して



常総市立水海道中学校
塚田 隆明

れた気がして胸が一杯になりました。翌日の個人戦の決勝戦でも、同じ中学校の人と当たって、一緒に全国大会へ行けることがとても嬉しかったです。

その後、私たちは、全国大会に向けて最終調整をしていました。しかし、なかなかチーム全体の調子が上がらず、全国大会前の練習試合では一勝もすることができませんでした。茨城県代表として、「このままではいけない」と思い、

私たちは何度も話し合いを重ねて気持ちを立て直しました。

いよいよ迎えた北海道での全国大会。予選トーナメントを勝ち進み、決勝トーナメントでは、鹿児島県の志布志中に競り勝ち、準々決勝では、優勝した九州学院に0対3で負けてしまいました。無我

夢中で戦い、気が付けばベスト8の敢闘賞をいただくことができました。また、個人戦では、四回戦敗退し、ベスト十六でした。悔しい気持ちはありますが、最高の夏を送ることができました。

日本一になることはできませんでしたが、水海道中の仲間たちは

私にとっては日本一のチームだと思っ

ています。仲間たちと共に支え合っ

て厳しい稽古も乗り越えることが

できました。この最高の仲間たちと

全国大会に出場できて、とても幸

せでした。これからは、それぞれ違

う高校に進むためチームを組むこ

とは出来ませんが、「全国大会」とい

うまた大きな舞台で再会できたら

嬉しいです。応援ありがとうございます。



茨城県剣道道場連盟
副会長兼理事 長
牛坂 裕彦

第三十九回茨城県剣道少年団 研修会 体験・実践発表会

で、今年は小学生百十五作品、中学生五十六作品、合計百六十七作品の応募があり、厳正な審査の結果小学生二十一作品、中学生十一作品を入選として、十一月十三日(日)に茨城県剣道少年団研修会を開催しました。

その結果、小学生、中学生の最優秀賞受賞者は、令和五年一月に茨城県日立市で行われる関東地区大会に出場いたします。全国研修会で最優秀賞を受賞した選手は、日本武道館で開催される、夏の全国大会開会式において、選手・来場者一万人の前で発表いたします。毎年、力強く発表し、多くの観客の皆様にご感動を与えております。

今回は、最優秀賞を受賞した小学生の部大泉彩葉さん(日立ジュニア剣道クラブ)、中学生の部瀬谷真琴さん(日立ジュニア剣道クラブ)の二作品を紹介いたします。

本大会は、剣道を通じた少年少女の健全育成を目的に設立された「日本剣道少年団」の活動の一環として開催されているものです。

剣道の修行を通じて学んだ体験や教えを作文にして発表するもの

昨年の夏、私たちは県大会団体決勝戦で負けてしまいました。悔しい思いをしたと同時に「一本」の重みを知りました。そして、コロナ禍で制限がある中、私たちはチーム一丸となって、人一倍稽古を重ねて精一杯努力を積み重ね、きました。「今年こそは優勝してやる」と仲間たちと共に誓い合い試合に挑みました。

決勝戦ではほとんど緊張もなく楽しんで試合をする事ができました。勝負は互角で引き分けの状態で大將戦にまわってきて、監督、仲間たち、保護者の方々の声援が響きわたりました。そして私は一本をとりました。ブザーが鳴った瞬間、思わず涙が出てきました。全国大会への切符を手に入れた喜び、そして今までの努力が報わ

心に向き合う難しさ



日立ジュニア剣道クラブ
日立市立助川中学校二年
瀬谷 真琴

今の私の最大の課題は、「心技体」の心(しん)、心(こころ)を強くすることです。剣道を始めて八年の今、この課題に向き合う事になりました。私は厳しい稽古を乗り越えるたびに、強くなった自分の姿を想像し、稽古を続けてきました。ですが、試合になると相手の気迫や攻めを恐れてしまい、有利な試合であっても勝てなくなってしまう、(あの頃の方が心が強かったのだからなあ。)と昔を振り返る事が増えました。

「あの頃」というのは、私が試合で結果を残せるようになった小学三年生の頃のことです。この頃の私は、県外遠征でたくさんの練成会に参加していました。低学年だったにも関わらず、高学年の部に参加し

鍛えてもらいました。相手は体も大きく、力も強い男子。吹っ飛ばされて泣く私。泣きながら試合をしました。今思い返すと、がむしゃらに向かつて行く自分に対して、本当に頑張っていたなと褒める私と、あの頃の自分を越える、ひたむきさと強さが今の自分にあるのか、比較する私が存在します。もしも、今の自分があの頃と同じような、がむしゃらさを持ち備えているならば、「自分のためだから」と、逃げ出さないと嘘をついて、途中で逃げてしまう今、今とあの頃の違いは「心」の差。

「次、地稽古やります。」と先生が言った瞬間先輩方がすごい速さで面の置いてある場所へ走り出しました。私はその光景に圧倒されながら、とりあえず先輩方についていきましたが、気付けば高校生は

面を既に着け終え、我先と先生方の方に走り出し、一瞬で私の周りから消え去っていました。取り残された私は恥ずかしい気持ちと、稽古を頂くとということから逃げ、稽古に対して消極的な姿勢が表立っていました。その中、まだ懸かれる先生がいることに気付きました。しかし、その先生の方に足を向けられずに、気付かないふりをしてしまいました。私はこの時、自分の心の弱さに気付いていたのです。この経験こそ、私が心を意識する大きなきっかけとなりました。

次の日の稽古、道場の先生から「先生に懸かることから逃げたり、稽古を休む事は簡単だけど、そこで逃げずに向かっていく事が出来れば、自分の弱い心に勝つ事になり、大きな自信につながる。」という内容のお話がありました。まるで自分と言われているようでドキッとした気持ちになりました。

それからの私は、先生に稽古を頂くにあたり消極性を捨て、懸かる時は一番を目指して走るようになりました。ですが、いつもそうできるわけではありません。(今日は

いや、明日でいや)と自分の心に負けそうになることもあります。そんな時は、仲間の頑張ってる姿から刺激をもらい自分を奮起させてきました。

私は、剣道を通して、仲間の大切さ、続けることの難しさの他に、自分の弱い心を見つけることができず、稽古を休みたいという気持ちに従うことは簡単です。しかし、そこが自分を鍛えるチャンスなのです。そのチャンスを逃すのか、受け止めていくのかで、心の成長が大きく左右されるのです。どんなに嫌でも、辛くても、乗り越えることで自信につながる事ができると気付きました。その自信は、人に言われて作るものではありません。

私は、これからも自分の中に潜む弱さに負けぬよう、一つ一つの小さな頑張り、弱さに挑むことを積み重ねて行き、自信につながる稽古、自信が持てる剣道を求めていきます。これこそが、最大の課題をクリアしたことになるから。負けるな、自分。負けるな、私。「心」に目を向けて……

ありがとう、剣道



日立ジュニア剣道クラブ
日立市立宮田小学校 六年
大泉 彩葉

私の体はごらんの通り大きいです。横から見れば厚みがあります。この大きな体だと、学校でいじめられてもおかしくないような特徴のある体型です。小さい頃は、体型のことでバカにされることもありました。その度に悲しい思いをしました。今でも、通りすがりに私の体型のことを言ってくる人もいます。でも、今の私はそんな言葉を気にすることなく、笑い流せるようになり、自分の体型に自信が持てるようになりました。

「私の体型は武器になる」剣道は、大きな体を活かせる競技でした。道場の先生から、「この規格外に大きい体型は一つの才能だ」と感動されたほごです。私の体型を喜んで受け入れてくださった先生に出会

い、道場の仲間もできました。「すごい破壊力だ」と、仲間達は笑って楽しくネタにしてくれます。ネタにされても、決して嫌な気持ちにはなりません。仲間が悪いイメージでネタにしているわけじゃないことが伝わるから。剣道に出会い、仲間に出会えたことで、私は自信と誇りと勇気をもらせるようになりました。私の人生に大きなきっかけを与えてくれたものが剣道だと言っても過言ではないと思います。

道場の先生から、「体を武器にした剣道をしなさい」と言われます。初めは、大きい体型がコンプレックスだったので、正直、体を活かすとか言っただけじゃありません。そもそも体を活かす剣道って何？ 恥ずかしいだけじゃん。ネガティブにしか受けとめる事が出来なかった私は、デリカシーのない先生に嫌悪感を抱きました。いくら道場の先生が身内の伯母とは言え、体型の事を言いすぎです。私の気持ちを察してくれないのか・・・ずっと思っていました。それでも、「規格外に大きい事は悪いことじゃない。最大の武器になる」さらに先

生はこう続けます。「彩葉の大きいのは、ただ大きいんじゃないんだよ。大きいけれど動けるの。動ける大きい剣士はなかなかいないんだから自信持たなきゃね」ほめられているのか、けなされているのか・・・悪い意味ではないと思いますが、違和感を拭きませんでした。

この大きな体型が、「自慢できるもの」に変わった出来事がありました。それは全国大会に出場した時の事です。日本武道館に集結した各地区の予選を勝ち抜いた道場の選手も強そうに見えます。圧倒されながら試合を待ってた私達に、先生が問いかけてきました。「会場を見渡してごらん。彩葉より大きい剣士がいるか？ 身長じゃなくて、総合的に大きい選手のことだよ」目をこらして全ての会場を見渡しました。私は内心「またそれ？ もう勘弁してよ」そう思いながら聞いてると、レギュラーの一人が「いません。彩葉が一番大きいと思えます。彩葉、すごいな」なにがよーってツツコミたくなりましたが、純粋に感動している仲間達と先生の表情を見ていたら、私の心がポワーン

としてきました。なんなんだろう、この気持ち・・・。

試合が始まりました。対戦相手が三回ほど私に体当たりしたあたりから様子がおかしくなりました。体当たりをしなくなり、泣いているんです。どうしたんだろう？ 試合は引き分けでした。直後、先生が興奮気味にこう言います「せっかく相手が怯んでくれたんだからチャンスを活かさなきゃ勿体ねえべよ。ずっと言い続けてきたけど、この体型は全国でも通用するんだってことをいい加減わかれ」先生に言われてそこで理解しました。ずっとコンプレックスだと思っていたこの大きな体が、剣道では相手が泣いてしまうほどの武器になるところ。コンプレックスが自慢できるものになった瞬間でした。

剣道との出会いがなければ、いつまでもコンプレックスを抱いた人生を送っていたことでしょう。今は、ネタにして笑い合える仲間と出会えました。自信と誇りと勇気を与えてくれた道場の環境に恵まれました。全ては、剣道のおかげです。ありがとう、剣道。

道場紹介

わたしたちの《どろじょう》

十王町武道振興会（日立市）

代表者 牛坂裕彦



戦前から盛んであった十王の
剣道の伝承と幼少年の健全育成
を目標に、子供から大人まで一
緒に稽古しております。

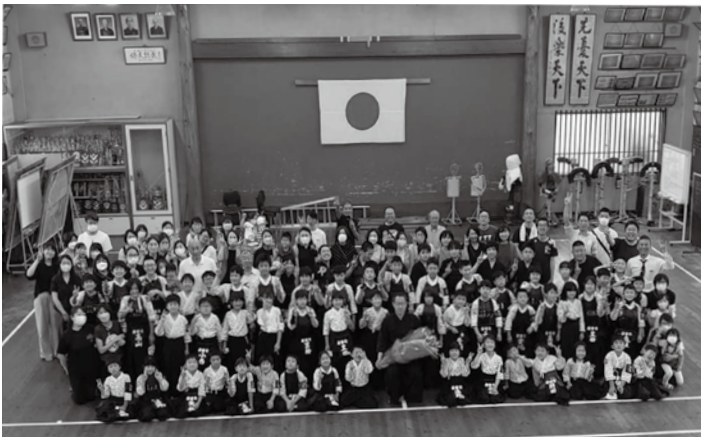


一般財団法人 勝田若葉会（ひたちなか市）

代表者 川上 篤



「修文錬武」を旗印に、剣道を
通して幼少年の健全育成を図っ
ています。



一般財団法人 相知館 (取手市)

代表者 金谷光躬



「気力を、身体を、正しい心を鍛え、社会・世界に必要な人間になる」ことを方針として指導しております。



総和剣道クラブ (古河市)

代表者 古谷芳和

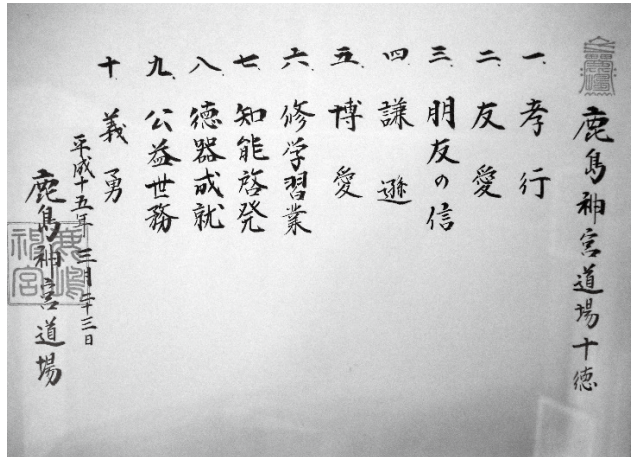


生涯剣道を目標に、子供から大人まで一緒に稽古しています。



鹿島神宮道場（鹿島市）

代表者 宮本尚朋



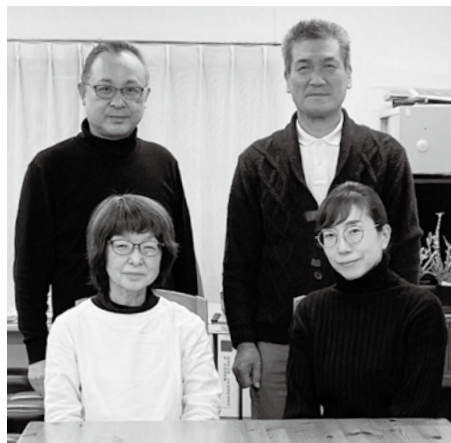
鹿島神宮道場十徳に基づき、日々の稽古に励み、人間形成を
実践しています。



事務局だより

新年明けましておめでとうござい
ます。

今年「兎年」です。兎は穏やか
で温厚な性質であることから、「家
内安全」また、その跳躍する姿から
「飛躍」、「向上」を象徴するものと
親しまれてきました。今年も茨城県
の剣道・居合道・杖道が大きく「飛躍」
「向上」していくよう、事務局員一
同業務に邁進していきますのでよろ
しくお願いいたします。



剣道連盟事務局メンバーが昨年八
月に変更となり、新たに村松めぐみ
さんが加わりましたのでよろしくお
願いします。

※令和五年度の年会費振込用紙を
同封しましたので、納入をよろ
しくお願いいたします。

編集後記

茨剣連廣報第66号ができました。
この廣報を最後のページから開いて
みてください。子供たちの一心不乱の
稽古の様子、そして笑顔があります。
小学生の皆さんの剣道に対する純粋な
考え方に心が洗われます。中高生の皆
さんの全国で活躍する様子が茨城剣道
の明るい未来が見えます。そして、成
年の皆様の昇段や試合の慶事が報告さ
れています。一体となった茨城の剣
道が一望できる冊子になっています。
2022年は、茨剣連創立70年にあた
り、式典や記念大会、記念史の発刊な
どがありました。そのことの報告やコ
ラムで「刀」についての紹介など盛り
だくさんの内容です。

これからもコラムの中で、「剣道への
医学的な視点」や「働く人と剣道の考
え方」「お勧めの本」「竹刀について」等、
取り上げていきたいと思えます。
本当に、忙しい中原稿をお寄せい
ただいた皆様にお礼申し上げます。
2023年もよろしくご協力お願い致
します。
(村嶋記)

茨 剣 連 廣 報

発行日 令和五年一月

水戸市堀町一六六一―一三

発行 人

一般財団法人 茨城県剣道連盟
広報委員長 村嶋恒徳

委員 兼子 勝喜

委員 西野 隆

委員 直江 克也

委員 饗場 千晶
印刷 野崎印刷紙器株式会社



油彩画「西洋雪景色図」徳川慶喜（福井市立郷土歴史博物館所蔵）

多才なる若隠居

静岡に移って、「最後の将軍」は過去の人となった。いまだ32歳であった。政治の表舞台から去った慶喜は、以後の長い後半生を趣味の世界に投じてゆく。多才ぶりには枚挙にいとまがないが、なかでも写真と油彩画は特筆されてよい。絵については幕府の洋学教育機関である開成所にいた中嶋仰山に西洋画を学んだ。洋行の経験のない慶喜は、海外の雑誌の挿絵などを参考に描いたのであろうか。全体に漂う詩情が印象的な油彩画である。

（茨城県立歴史館 平成26年度特別展図録「徳川慶喜」より引用）